

(学校運営協議会・報告様式)

令和6年度 第2回 創徳中学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年7月12日(金) 19:00 ~ 20:00

2 場 所 会議室

3 あいさつ(学校長、委員長)

4 協議内容

(1) 学校関係者評価(今年度の活動と指標)について【教務より】

- ・今年度は学力向上とICTの活用の項目を一緒になった。ICTは学力向上のための手段のため。
- ・不登校の項目にあるSSWなど外部の方が入っていろいろなアドバイスをいただいている。
- ・地域連携の項目にある外部人材を活用した取組では、以前本校で勤務されていたJICAの方に話を聞いたりしている。
- ・非認知能力(やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性)育成については、一学期の終わりにアンケートをして一人ひとりの状況を把握し2学期からの指導に活かしていきたい。

○なぜ「読み取る力」、「表現する力」を育成する授業を推進するのか、夏休みの補充学習はどのように実施されるのか。

→全国学力学習状況調査やみえスタディチェックの結果より記述の問題の正答率が低いこと、問題文を正しく読み取れていないという課題から授業や定期テスト等でそのような力を育成することを意識して授業づくりをしている。夏休みの補充学習は8月の前半に2日間、後半に2日間、英語と数学の希望者と招待者の教室、質問教室で開催する。

(2) 熟議「子どもたちが社会を生き抜いていくために必要な力とそれを育むために私たちができること」

- ・社会を生き抜いていくために必要な力は学力、体力、コミュニケーション力と考える。そのために自分にあわせた学校へ行き、希望をみつけて選択肢を広げる。クラブに入り運動が必要である。

・SNS 関連でのつとり等の問題が、生徒からの訴えからわかった。学校では誰が行っているかまではつきとめられないところもあるが、相談できる生徒と先生の関係があり安心。自分たちの時と違って難しい問題である。友達同士の会話も SNS を通してが多くなったのでうまくコミュニケーションをとる必要がある。

・夏休み明けに自殺が増えるといった生きづらい社会の中、格差やエリート教育ではなく、失敗から学んだり、どうやって乗り越えるかを考えさせたりしていく必要がある。距離間や世の中はそういうことだということを知り、非認知能力が大切となる。

・私たちができることは、一緒に取り組んで悩むなど寄り添うことであったり、失敗を話すなど自己開示をしていったりすることが大事である。また、例えば、車の営業の仕事でお客さんに話をしても車がほしいと思っていないのなら断られる。ただ、もし壊れた場合や購入したいときのために関係をつくっておくといったようなつながりが大切といえる。目標の決め方も職業や学校ではなく、どんな人間になりたいかに重きをおいて考えていく。

・レジリエンスが必要である。社会を生き抜いていくために、リーダーを育成するよりはレジリエンスを鍛えるが大切と考える。ただ地域で何ができるかは難しいが声かけなどをしていく。

・地元のことをもっと知り、一方からの思いや見方だけではなく、多角的な視点で物事を見られるようにするとよい。例えば、災害が起きた場合、支援のためにボランティア活動に参加することもあるだろうが、被災地の人たちは、無償で支援をしに来てもらっている人には、気がひけて物事をお願いしづらい状況がある。災害にボランティアは必要だと思いがちだが、そうではないこともある。

5 教育委員会より

熟議という新しい試みをして、それぞれの立場から意見がありよかった。鈴鹿市としては、非認知能力（やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性）を育てていくことが大切と考えている。この会議を経て、目標はあるがどんな子どもにしていくかが大切と感じた。

6 その他

○連絡事項

- ・本日の配布物の確認
- ・拡大運営委員会 日程変更

11月26日 ⇒ 10月23日(水) 15:30～ 清和公民館

○次回 令和6年9月13日(金) 19:00～ 創徳中学校 会議室